



プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2016 年 2 月 19 日

氏名：木下 千裕

所属機関・職名：京都大学 地震予知研究センター

IODP 研究航海番号 および航海名	IODP365
乗船時の役割	OBSERVATORY SPECIALIST
出張期間（移動含む）	2016 年 2 月 11 日 ～ 2016 年 2 月 14 日
実施場所	東大地震研 1 号館 2 階 セミナー室
実施による成果と今後の計画 <p>2 月 12 日-14 日に実施された国際研究集会「南海トラフ・日本海溝の海底・掘削研究による海溝型巨大地震過程とテクトニクス」では国内のみならず、海外の最新の研究成果について情報を収集することができ、Exp.365 で初めてちきゅうに乗船する前に良い機会を与えていただいたと思う。発表では海溝型巨大地震の発生メカニズムについて地震発生帯を模擬した室内実験の成果や、連続観測記録の紹介、そのデータを用いた研究成果について、有意義な議論が行われ、特に南海トラフ地震発生帯掘削について紹介した JAMSTEC の荒木英一郎氏、ウィスコンシン大学の Harold Tobin 氏の内容は大変興味深く、Exp.365 の航海までの経緯とこの航海の意義について改めて確認できた。</p> <p>また 14 日の午後に実施されたプレクルーズ打ち合わせでは Exp.365 の航海概要の説明を聞き、航海中の役割について確認を行った。Exp.365 の主要な目的は C0010 孔内に設置されている①観測装置回収および②今後恒久的に観測記録が得られるよう新しい観測装置を設置することであり、①の観測装置回収に伴いこれまで記録し続けた新しいデータを得ることが期待され、この記録を用いどのような研究を行うか、個々の研究者が意見を出し合った。また、新しく恒久的な長期孔内観測装置が設置され新しいデータを得られるようになった場合、どのような解析、研究を行っていくか日本人研究者および海外の研究者と船上で議論するために、個々の研究者が乗船までにその準備を行うことを確認した。</p>	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org)でご提出ください。



プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2016 年 3 月 9 日

氏名： 荒木英一郎

所属機関・職名： JAMSTEC 地震津波海域観測研究開発センター GL代理

IODP 研究航海番号 および航海名	IODP Exp 365 NantroSEIZE shallow megathrust LTBMS
乗船時の役割	Observatory Specialist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動含む)	2016 年 2 月 12 日 ~ 2016 年 2 月 14 日
実施場所	東京大学地震研究所
<p>実施による成果と今後の計画</p> <p>東大地震研に 2 月 12 日から 2 月 14 日にかけて、日本から Exp 365 に乗船する乗船研究者が集合し、まず、同時開催の地震研究シンポジウムに参加することで、南海トラフ、日本海溝を中心とした沈みこみ帯の地震研究の最前線を学び、議論を行うとともに、シンポジウム終了後、乗船研究者のみによる Exp365 で実施予定の長期孔内観測システム(LTBMS)の概要について解説し、乗船者の役割、LTBMS から得られるデータとそのデータ取得方法についてブリーフィングを行うとともに、各乗船研究者の研究計画について相互に議論を実施した。</p> <p>このことによって、乗船準備および乗船中、乗船後の各々の研究がそれぞれ効率的かつ相補的なものとなることが期待される。また、乗船中は、国際的なフレームワークにおいて同様の議論がなされることが予定されるが、その際、日本からの乗船者がより大きなイニシアチブを発揮することが期待される。</p> <p>乗船後、6 月に航海中に設置した LTBMS と DONET の接続を行うことを計画しており、DONET の接続後の DONET を通じたデータを利用した研究を促進するうえでも、本集会は有用であったと考える。</p>	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。



プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2016 年 3 月 10 日

氏名： 木村 俊則

所属機関・職名： JAMSTEC・技術研究員

IODP 研究航海番号 および航海名	IODP Exp.365 NanTroSEIZE Shallow Megasplay Long-Term Borehole Monitoring System (LTBMS)
乗船時の役割	Observatory specialist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動含む)	2016 年 2 月 13 日 ~ 2016 年 2 月 14 日
実施場所	東京大学地震研究所 1 号館 2 階 セミナー室
実施による成果と今後の計画 2/12-2/14 に地震研究所で開催されている地震発生帯関連のシンポジウムに合わせて開催された IODP Exp.365 プレクルーズトレーニングに参加した。シンポジウムでは、国内外の研究者による沈み込み帯地震研究に関する発表(口頭・ポスター)を聴講し、掘削研究を含めた当該分野での研究の現状、今後の展望について議論をすることができた。その後実施されたプレクルーズトレーニングでは Exp.365 の国内乗船研究者が集合し、航海の全体スケジュール、LTBMS の概要および DONET へのケーブル接続を含めた今後の整備予定などを各担当者から説明した後、乗船者各自の研究計画等について議論を実施した。 本トレーニング実施により、LTBMS 関係の Exp.365 完了後を含む全体の観測スケジュール、および乗船者それぞれの研究計画を日本からの乗船者全体で共有することができた。これにより、今後のデータ解析・研究を進めるにあたっての情報共有、研究分担の議論が効率的に進むと期待される。	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org)でご提出ください。



プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日：2016年2月18日

氏名：小林 励司

所属機関・職名：鹿児島大学・准教授

IODP 研究航海番号 および航海名	Exp. 365 Shallow Megasplay LTBMS
乗船時の役割	Observatory scientist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動含む)	2016年2月12日～2016年2月14日
実施場所	東京大学地震研究所
実施による成果と今後の計画 国際研究集会「南海トラフ・日本海溝の海底・掘削研究による海溝型巨大地震過程とテクトニクス」に出席し、研究に関する情報交換を行った。研究集会終了後、乗船研究者が集まり、研究航海の目的と概要の説明、各研究者のデータリクエストの紹介と議論、その他ロジスティックスなどの研究打ち合わせが行われた。	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。



プレクルーズトレーニング実施報告書

提出年月日： 2016 年 3 月 10 日

氏名：町田 祐弥

所属機関・職名：海洋研究開発機構 地震津波海域観測研究開発センター 技術研究員

IODP 研究航海番号 および航海名	IODP Exp 365 NantroSEIZE shallow megathrust LTBMS
乗船時の役割	Observatory specialist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動含む)	2016 年 2 月 13 日 ~ 2016 年 2 月 14 日
実施場所	東京大学地震研究所
<p>実施による成果と今後の計画</p> <p>東京大学地震研究所にて 2016/2/12~2/14 に開催された地震発生帯国際研究集会に合わせ、Exp. 365 航海における日本人乗船者（研究者）が集まり、Exp. 365 航海における情報、各研究者の研究方針の共有、議論（プレクルーズ打ち合わせ）を行った。</p> <p>国際研究集会では、南海トラフ、日本海を中心とした沈み込み帯における地震発生に関する最新の研究内容を聴講し、Exp. 365 航海での地震に関する研究の意義について共有することができた。また、プレクルーズ打ち合わせでは、乗船者の意識の共有、議論を行ったことで、Exp. 365 航海中作業だけではなく、今後取得する観測データについても、円滑に共有を行えることが期待される。</p>	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。